

2016年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
上釜 健宏

私からは2016年3月期通期見通しについて簡単にご説明いたします。

重点市場	市場動向
ICT	↗ 北米スマホは、3Q生産ピークで4Qも前年並みの生産を予測
	→ 中国スマホ、韓国スマホは2Q→3Qも生産水準は微増
	→ HDD市場は前回想定より低調に推移（前回4.9→今回4.63億台）
自動車	→ 国内、中国市場向け販売は前年割れも、欧米市場中心に下期も堅調に推移する見込み
	↗ xEV*は国内メーカー新型モデル発売により下期生産増
産業機器	→ 再生エネルギー市場は、各国で大規模なプロジェクトも計画されており今後も需要が伸びると予測 産機市場は設備投資の抑制で国内向けは減速傾向

(当社推定)

*xEV：EV、HEV、PHEV

まず下期の市場動向についてご説明したいと思います。下期は中国経済の減速に伴い、電子部品需要に対しても不透明感や懸念が広がってきておりますが、当社の注力している重点市場、主要セットについては次のように見ております。

①ICT市場

北米大手スマホメーカーは、この第3四半期生産がピークで、第4四半期も前年並みの生産台数を予測しております。今年マイナーチェンジモデルで前年割れの懸念もありますが、通期でも前年並みの台数は生産するものと見ております。

中国スマホは、大手8社の動向をベンチマークしていますが、第2四半期から第3四半期にかけても生産水準は微増で推移すると見ております。勝組と負組の色分けがはっきりしてきましたが、全体的には受注も堅調に推移しております。

韓国スマホは、ハイエンド機種が生産が当初計画より下振れておりますが、ミッド/ローエンドモデルを増やしており、年間では期初計画の台数は生産するものと見ております。

PC市場の悪化によりHDDの市場想定(TAM)を前回説明の4.9億台から4.63億台へ修正することとしました。データセンター向けの需要は下期も堅調に推移するものとみております。

②自動車市場

日本国内や中国市場向けの自動車販売は前年割れの状況となっておりますが、全体では欧米市場を中心に需要も堅調に推移するものと見込んでおります。

xEVはガソリン安の影響で、期初想定より生産が伸び悩んできましたが、下期には国内大手メーカーの新型モデルも発売され、第4四半期にかけて生産が大きく伸びると予測しております。

③産業機器市場

再生エネルギー市場は、世界各国で大規模なプロジェクトが計画されており、今後も需要が伸びると予測しております。

一方、産機市場は設備投資の抑制の影響で、国内市場は減速傾向がみられますが、全体としては堅調に推移するものと見ております。

(億円)

セグメント 区分	2016年3月期 2Q実績	2016年3月期 3Q予想 (対2Q)
受動部品	1,502	±0%
磁気応用製品	853	-4%~-6%
フィルム 応用製品	641	+7%~+9%
その他	86	—
合計	3,081	±0%

為替前提

為替レート \$/Yen

122.31

115.00

為替レート EURO/Yen

136.06

130.00

次に、各セグメントの第3四半期の売上見通しについてご説明いたします。

為替については、期初想定通り、対米ドルで115円、対ユーロで130円を前提とした売上見通しになります。

まず受動部品ですが、第2四半期から第3四半期にかけて、売上はほぼ横ばいを見込んでおります。先程申し上げました通り、市場としてはICT向け及び自動車向け販売は全体的に堅調に推移すると見込んでおりますが、一部の製品において、第2四半期から既にフル生産になっていること、また逆に第2四半期から第3四半期で減少する製品もあると見込んでいるため、セグメント全体としては横ばいを想定しております。

磁気応用製品は、マイナス4パーセントから6パーセントの減少を見込んでおります。冒頭に山西からお伝えさせていただきました通り、HDDヘッドの出荷数量はほぼ横ばいを見込んでおります。また、足元の市況を鑑みて、一定の売値引きも想定しております。

フィルム応用製品は、第1四半期から第2四半期にかけて、売上が約1.5倍となる高い成長を実現しましたが、第3四半期はその水準からさらに7パーセントから9パーセント程度の伸びが期待できると見込んでおります。第3四半期に生産ピークを迎える主要顧客向けの販売を中心に、二次電池の販売が好調に推移する見込みです。

期初公表値（4月28日）から変更なし

(億円)	2015年3月期 通期実績	2016年3月期 業績予想	業績予想対前期比	
			増減	増減率(%)
売上高	10,826	11,800	974	9.0%
営業利益	725	950	225	31.0%
営業利益率	6.7%	8.1%	+1.4pt	-
当期純利益	494	650	156	31.6%
1株当たり利益(円)	392.78	515.92	-	-
配当金	上期：40円 下期：50円 年間：90円	上期：60円 下期：60円 年間：120円	-	-
為替	対ドルレート	109.84	115.00	-
	対ユーロレート	138.88	130.00	-

連結業績の予想及び配当金の見通しですが、4月28日から変更していません。
 以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2016/2q_1.htm